

# 発達障害児早期支援研究所

所長 松崎博文（前所長、福島大学名誉教授）

## ○研究目的

就学前の発達障害幼児とその母親を対象に学校教育へのスムーズな移行を図るための支援体制の構築と地域連携を目的とする。その一環として、福島大学に設けた早期支援教室（「つばさ教室」）において、発達障害幼児にはSSTと個別指導を、母親にはペアレント・トレーニングを実施した。

## ○研究メンバー

### ＜研究代表者＞

松崎 博文（人間発達文化学類・教授）

### ＜研究分担者＞

鶴巻 正子（人間発達文化学類・教授）

渡辺 隆（人間発達文化学類・教授）

中野 明德（総合教育研究センター・教授）

内山登紀夫（大学院人間発達文化研究科・教授）

### ＜連携研究者（プロジェクト客員研究員）＞

鈴木裕美子（附属特別支援学校・校長）

神野 興（附属特別支援学校・副校長）

五十嵐育子（附属特別支援学校・教諭）

真部 知子（福島県養護教育センター・所長）

熊谷 賀久（福島県教育庁特別支援教育課・指導主事）

村田 朱音（福島県養護教育センター・指導主事）

島 康子（相馬市立磯部小校・教諭）

鈴木由美子（会津若松市立第二中学校・教諭）

土橋美智子（いわき市立小名浜第一小学校・養護教諭）

桃井 範子（福島市立笹谷小学校・教諭）

## ○研究活動内容

### (1)早期支援教室「つばさ教室」の実施

東日本大震災により、一時閉鎖していた福島大学早期支援教室（通称「つばさ教室」）を平成24年9月から再開して支援を開始した。平成25年度の「つばさ教室」には就学前の発達障害児とその保護者5組（男4名・女1名）が参加し、子どもには個別指導計画に基づく療育とSSTを、保護者（母親）に対しては別室でペアレント・トレーニングを実施した。回数はイン

テークを含めて5月から12月まで計10回実施し、学生・院生のボランティアも16名が参加した。また25年度は研究協力者として外部から社会人スタッフ2名（元特別支援学校教諭及び同幼稚園教諭）が加わり、研究所メンバーである松崎と鶴巻の指導のもと、総勢20名で教室の運営に当たった。

幼児教室においては、学生ボランティアと院生が中心になり個別指導計画を作成し、個々の幼児に合わせて個別課題による療育と集団活動（遊び）を通してSSTを実施した。母親教室においては、別室において学校制度や就学に関する各種の情報提供とペアレント・トレーニングを中心に実施した。ペアレント・トレーニングでは主に行動のパターンを知ることから、上手な褒め方、無視の仕方、予告、等について具体的な例を通して学習した。

### (2)福島県三春小学校の視察

平成19年度から福島県内で唯一5歳児検診を開始した三春町の早期支援体制とそれを引き継ぐ小学校での特別支援教育体制の実態を見聞するために12月10日に学校を訪問し、学校長及び通級指導教室担当の斎藤忍教諭から聞き取り調査を実施した。同校の実践は平成25年度の文部科学大臣奨励賞に輝き、著書としても出版されている（ジアース教育新社）。

(3)福島市保育所障がい児保育ネットワーク会議との連携  
平成22年度から福島市児童福祉課（子育て支援係）に設置された「福島市保育所障がい児保育ネットワーク会議」に所長の松崎がメンバーとして参加し、福島市内13箇所の保育施設（公立保育所）の保育士、療育機関の副園長、児童相談所の判定課長、教育委員会の指導主事、学校関係者、福祉事務所や保健福祉センターの保健師、等々とケース会議を中心に8回実施した。会議では各機関での取り組み等について情報交換を行うと共に、地域における発達障害児の早期発見・早期対応・保護者支援などのためのネットワーク体制の整備と早期支援体制の構築に向けて連携して取り組んで行く必要性を確認した。なお、25年度後半からは新メンバーに福島市内の私立保育所の保育士が加わった。

#### (4)その他の活動

発達障害児早期支援研究所での取り組みや発達障害児に対する早期支援の在り方について、8月22日に宮城県総合教育センターが主催した障害幼児教育研修会に松崎が講師を依頼され講演した（約100名参加）。